

日刊建設工業新聞（2022年3月10日付3面掲載）

【オリコンサルら、空港リムジンバス使い実験 ドライブレコーダー映像 AI分析で路面性状点検】

ドライブレコーダー映像 AI分析で路面性状点検

オリコンサルら、空港
リムジンバス使い実験
オリエンタルコンサルタンツら4社

は10日、南紀白浜空港（和歌山県白浜町）にアクセスする空港リムジンバスで、路面性状点検の実証実験を開始する。バスに搭載したドライブレコーダーの映像を人工知能（AI）で分析。亀裂や損傷が自動検知できるか検証す

る。路面損傷などを自動検知する仕組みを構築し、オリコンサルらは発注者に積極提案する考えだ。

実証実験は▷NEC▷南紀白浜エアポート（同白浜町、岡田信一郎社長）オリコンサル▷熊野御坊南海バス（同

新宮市、佐伯一也社長）の4社が行う。期間は4月9日までを予定し、空港とJR新宮駅を結ぶリムジンバス（片道約103km）を活用する。

1日2往復を走行するリムジンバスにドライブレコーダーを設置し路面状

態を記録する。ディープラーニング（深層学習）で取得画像からひび割れやポットホールを自動検出。道路の平坦性も計測する。路線バスに新たな機能を付加するとともに、路面性状の把握で課題だった点検要員の確保やコ

スト縮減に貢献する。

自動検知システムはNECとオリコンサル、南紀白浜エアポートの3社が共同開発した。国土交通省の第5回「インフラメンテナンス大賞」で国土大臣賞を受賞している。